

## 議 事 録

議 題	令和3年度東京都電設協会との意見交換会	
日 時	令和3年 12 月1日(水)13:30～15:00	
場 所	都庁第二本庁舎13階局議室	
出席者	■一般社団法人 東京都電設協会	5名
	□東京都住宅政策本部	5名
議 事 内 容		
<p>1. 挨拶・自己紹介</p> <p>2. 議題</p> <p>(1) 都営住宅の技術者育成について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>□ 都営住宅の電気設備工事において、どのような取り組みが技術者育成に繋がるのか。</li><li>■ 都営住宅の工事は、新築工事のため、各社パターン化された住宅の施工図の積み重ねがある。精度の高い発注図であれば、若手技術者でも担える。また、財務局などで発注する改修工事と比較すると、受注額の割には工期が長い印象があり、マンパワーを掛けづらく、技術者育成の経費も掛けられない。</li><li>□ 技術者育成のモデル事業の発注は、受注者希望型が良いのか。</li><li>■ 都営住宅の工事において、ベテランと若手を常駐させるには受注者希望型が良い。</li></ul> <p>(2) 都営住宅へのBIMの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>□ BIMについて、事前に活用状況等をお聞きしたが、導入を進めるには、どのような取り組みが必要となるか。</li><li>■ 現状、都営住宅の工事には必要なく、コストアップとなるためBIMの導入はしていない。</li><li>□ BIMの導入を進めるには、発注者側がソフトウェアライセンスを貸与する形ではどうか。</li><li>■ コスト的には良いが、使いこなすためのスキルが必要となる。CADの導入時のように、ある程度の時間が必要ではないか。</li></ul> <p>(3) 都営住宅工事の遠隔施工管理について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>□ 遠隔施工管理の活用について、どのような実用性や課題があるか。また、遠隔施工管理に期待するものはあるか。</li><li>■ コロナ禍の影響もあるため、積極的に進めたい。都では遠隔施工管理について、どの様に進めているのか。</li><li>□ 住宅政策本部では、現場での定例会議だけでなく、安全パトロールなどで試行している。現場確認や監督員の育成などへの活用も検討している。</li><li>■ 材料搬入や配管、配筋検査などに活用することができれば、現場にもメリットがある。また、提出書類が多いため、材料搬入報告書や試験成績書などで活用できれば、書類や写真の削減となり、非常にメリットとなる。</li></ul>		

#### (4) 太陽光パネルの設置について

- 住宅政策本部では、温室効果ガス排出量削減を実現させるため、再生可能エネルギーの導入を進めている。都営住宅の屋上に増設する場合、設計や施工にどのような工夫が必要か。
- 施工には、置き基礎の架台を活用して、たくさんのパネルを置くことは可能である。最近は、角度をつけずにパネルを設置している。高さを低くして風の影響も少なくする。
- 都営住宅の屋根に可能な限りの太陽光パネルを設置する場合、施工上の必要なスペースの留意など、どの程度必要か。
- 安全通路として1m程度を確保すれば良いと考える。